

国語 第3学年 国語辞典を使おう

授業の設計図

元にした物：小学校学習指導要領（平成29年告示）の原文と、国立教育政策研究所の学習評価の参考資料。教科書の本文・問題・挿絵は入れていません（先生が入れる欄）。光村図書の令和6年度版年間指導計画に基づく1学期の授業案。教材本文・台詞・挿絵・問題文は転載していない。

この単元で子どもが最後にできるようになること

国語辞典の並びと見出しを使い、語の意味を確かめる。学習の記録は、同じ言葉を使う文、文中の意味、意味を判断した前後の語である。公式年間計画は知識・技能に重点を置く短い教材としている。本案でも本時は知①を中心に記録し、思考・判断・表現をこの教材だけで独立して評定する扱いにはしない。

学習指導要領のどこに書いてあるか（原文）

学習指導要領の項目	原文
〔第3学年及び第4学年〕〔知識及び技能〕(2)イ	イ 比較や分類の仕方、必要な語句などの書き留め方、引用の仕方や出典の示し方、辞書や事典の使い方を理解し使うこと。

単元目標

辞書の使い方を理解し使うことができる。（〔知識及び技能〕(2)イ）

国語辞典の並びと見出しを使い、語の意味を確かめる学習の中で、言葉への関心を持ち、自分の取り組みを見直そうとする。

評価規準（3観点）

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①辞書の使い方を理解し使っている。（〔知識及び技能〕(2)イ）	①この教材単独では記録に残す評価を行わず、関連する言語活動の単元で見取る。	①国語辞典の並びと見出しを使い、語の意味を確かめる学習に進んで取り組み、友達の反応や自分の記録を確かめながら、言葉の使い方や捉え方を見直そうとしている。

単元の流れ

光村図書の年間指導計画による全2時間（知・技2）。総時数は公式資料に従う。各時の配分と本時の選定は、本案による授業配当の提案である。

次	時	学習活動	評価規準（評価方法）
第1次	1	○誰に何を伝えるかを確かめ、書く材料や最初の文を出す。 既習の語を辞典の並び方で探し、見出し語・意味・用例を区別して読む。	学習状況を見て支援する。
第2次	2 （本時）	○既習の語を辞典の並び方で探し、見出し語・意味・用例を区別して読む。文中の意味に合う説明を選び、自分の文で確かめる。対象の言葉や文字をもう一度使い、確かめたことが別の例でも生かせるかを試す。	知①（発言・活動中の記録・作成物）

本時の案

本時の目標：辞書の使い方を理解し使うことができる。（〔知識及び技能〕(2)イ）

段階	学習活動（○主な発問） ・予想される児童の反応	指導上の留意点（◎評価）
導入 （ 分）	誰に何を伝えるかを確かめ、書く材料や最初の文を出す。 ○「この語を探す時、どの文字まで同じかを順に比べますか」 【めあて】国語辞典の並びと見出しを使い、語の意味を確かめる。 〈予想される児童の反応〉 ・同じ「かける」でも行動が違う。	最初の言い方や記録を残し、授業後の考えと比べられるようにする。正答を先に示さず、扱う言葉と課題を確認する。
展開 （ 分）	○「この語を探す時、どの文字まで同じかを順に比べますか」 既習の語を辞典の並び方で探し、見出し語・意味・用例を区別して読む。文中の意味に合う説明を選び、自分の文で確かめる。 対象の言葉や文字をもう一度使い、確かめたことが別の例でも生かせるかを試す。 〈予想される児童の反応〉 ・同じ「かける」でも行動が違う。 ・前後を読むとどの意味か分かる。 ・辞書には意味が分かれて書いてある。	辞典を開いて柱と見出しの並びを示し、最初の文字から順に比べる。見付けた項目では、意味の番号と用例を区別し、自分の文に合う意味を選ぶ。 想定する難しさ：同じ表記ならいつでも同じ意味と考える、文の前後を読まず辞書の意味を写す。 評価では、辞書の使い方を理解し使っているかを、同じ言葉を使う文、文中の意味、意味を判断した前後の語と活動中の発言・操作から確かめる。作品の量や見えた目、発言の回数だけで判断しない。 ◎知① 辞書の使い方を理解し使っている。（発言・活動中の記録・作成物）
まとめ （ 分）	【まとめ】問いへの答えを、今日確かめた言葉や表現を含めて話す。 同じ言葉を使う文、文中の意味、意味を判断した前後の語を見返し、初めと変わった点や、そのまま残した理由を確かめる。 〈予想される児童の反応〉 ・辞書には意味が分かれて書いてある。	教師のまとめを写すだけにせず、本人が選んだ言葉と理由を確かめる。態度は本時だけで決めず、単元を通した取り組みと調整の記録を合わせて判断する。 ◎態①（最初と最後の記録、見直しの理由）

板書の構造（縦書き・右から左へ）

縦書きで、右から左へ学習の流れを配置する。右端に題名とめあて、その左に問い「この語を探す時、どの文字まで同じかを順に比べますか」。中央は、同じ言葉を使う文、文中の意味、意味を判断した前後の語に必要な言葉・材料と、考えた理由を対応させる。本文を扱う場合は先生が手元の教科書から必要な範囲を示す。左側に比べて気付いた点と見直した箇所、左端に本時で確かめたことを置く。

つまずきやすい所と手当て

同じ表記ならいつでも同じ意味と考える、文の前後を読まず辞書の意味を写す。この難しさには、辞典を開いて柱と見出しの並びを示し、最初の文字から順に比べる。見付けた項目では、意味の番号と用例を区別し、自分の文に合う意味を選ぶ。評価では、辞書の使い方を理解し使っているかを、同じ言葉を使う文、文中の意味、意味を判断した前後の語と活動中の発言・操作から確かめる。作品の量や見た目、発言の回数だけで判断しない。

プリントの案

本時の記録

同じ言葉を使う文、文中の意味、意味を判断した前後の語を残す欄を用意する。教材本文や図を複製せず、自分の言葉や印で記録する。

比べて確かめたこと

最初の考えや表現、友達からの反応、確かめた言葉、最後に選んだ考えや表現を対応させる。書く負担が大きい場合は口述や指差しも教師が記録する。

出典：光村図書 令和6年度版 年間指導計画。教材名・時期・総時数・目標の出典。年間指導計画例 Excel（3年）「3年上巻」27行目（https://www.mitsumura-tosho.co.jp/download_file/view/7ff6b471-db8d-470a-968a-a9899624022a/368）／文部科学省 小学校学習指導要領（平成29年告示）。保存した公式原文と学年段階・項目を照合。

（https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/1384661.htm）／国立教育政策研究所「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 小学校 国語。評価の観点と記録の考え方。

（https://www.nier.go.jp/kaihatsu/pdf/hyouka/r020326_pri_kokugo.pdf）

AIが作成した授業案です。授業での検証は未実施です。自校の教材・年間計画・学級の実態に合わせて確認してください。



Threads「三重でAI使うなら」(@mie_ai_katsuyo)
https://www.threads.com/@mie_ai_katsuyo

LINEオープンチャット
みえ先生ラボ

